姉妹町村 美浦村のホット情報

「つばさ」は海を渡り中国へ

美浦中生と臨桂一中生 出会いと感動の中で 交流会

「まちづくりは人づくりから」と、国際的な視野を持った人材を育成するため、美浦村人材育成協議会が中学生を対象に行っている「少年のつばさ事業」。今年も夏休みを利用して八月四日から九日までの六日間の日程で行われ、市川村長をはじめ、美浦中学校の三年生たちが、美浦村と友好関係を結んでいる中国桂林市臨桂県などを訪問しました。

踊りを通して楽しく交流

臨桂第一中学校の生徒との交流をはじめ、万里の長城や故宮博物館などの見学を通して、「生」の中国文化に触れてきました。参加した美浦中の生徒の中には、「日本と中国、全く違う文化を持った国どうしで、言葉が通じなくても、いっしょに喜びあうことができることに感動した」と感想を述べており、大変実りの多い中国訪問でした。

新潟県「母と子のよい歯のコンクール」優秀賞受賞

神田 佑成ちゃん 玲子さん

毎年三歳児健診を受診した母親と子供を対象に、新潟県主催の「母と子のよい歯のコンクール」が行われています。

昨年の三歳児96名のうち、53名のお子さんがむし歯0本でした。再健診の結果、横越町の代表として横越中地区の神田佑成ちゃんと玲子さんの親子を推薦しました。審査の結果、優秀賞を受賞されました。

お母さんの話では、むし歯予防には、最初が肝心と思い、まだ歯が顔を出していない時期からガーゼで歯磨きを始めたそうです。

一歳になる頃には、歯磨きのたびに嫌がって大暴れされ、歯磨きをさせるには大変な時期でしたが、佑成ちゃんの好きな歌を歌ってあげるなど、お父さんの協力を得ながら乗り越え、現在では、家族全員で歯の健康に気をつけています。また、食生活の面では、小さな頃から牛乳や小魚を取るようにしたり、チョコレートなどを食べたときは、歯磨きの時間を二倍にしているとのこと。

最近は努力の甲斐があって、自分から歯磨きをするようになったそうです。

なお、表彰式は十月九日に新発田市民文化会館で開催予定の第19回新潟県歯科保健大会で行われます。

耳よりな情報

～広域情報ネットワーク～

〈豊栄市〉

水の公園福島潟グランドオープン

▶期　日　10月10日（金）～12日（日）
▶場　所　水の公園福島潟、水の駅「ビュー福島潟」など
▶内　容　オオヒシクイについての国際シンポジウム、自然彫刻展示、早朝探鳥会、映画「グース」の放映、フリーマーケットなど
▶問い合わせ　水の駅「ビュー福島潟」
☎387－1491

〈笹神村〉

やまびこ歩け歩けフェスタ'97

▶期　日　10月10日（金）　9時30分開会式
▶場　所　五頭高原スキー場駐車場特設会場
▶内　容　全長5㎞の「やまびこ通り」の健康ウォーク（参加無料）
五頭温泉郷旅館対抗鍋合戦
（限定300名、参加費500円）
特産品の出店コーナーもあります。
▶問い合わせ　笹神村役場企画商工観光課
☎0250－62－4141

ふる里物語 町史編さんだより㊲

寺々に下ろされた本尊と絵像

横越町内には現在四カ寺の浄土真宗寺院があります。真宗系寺院では住職の世襲が一般的であるため、他宗派の寺院に比べて史料伝存の可能性も高いと言われています。真宗寺院である以上、御本尊はみな阿弥陀如来ですが、それと併せて、またかつては本尊そのものとして代々寺に守り継がれてきた寺宝に目を向けますと、こちらは寺院によって色々と違っているのです。

小杉松韻寺所蔵の親鸞上人影像（上）と寛文11（1671）年銘の東本願寺法主による裏書き（右）

「南無阿弥陀仏」の六文字を記した六字名号。「南無不可思議光仏」（光のように人間の思量を越えた仏）と記した八字名号。さらには「帰命盡十方無碍光如来」（何もさえぎることのできない光のような仏を崇拝）と記した十字名号。この「名号」と呼ばれる文字史料だけでも幾つもの様式があるのです。名号の違いもさることながら、紙上に墨書しただけのものから、絹布に切金細工の金文字で記したもの、文字の下部に蓮台が描いてあるもの、さらには文字を中心に放射状の光明（光線）が描かれているものまであり、その緻細な工芸にも興味をひかれるところです。これら名号となら国の門徒衆に下附したものが親鸞や蓮如の姿を描いた影像（肖像画）です。

十五世紀後半、蓮如の時代になると、かかる絵像の題材は、中国やインドの高僧、あるいは聖徳太子など日本の先徳に加えて、開祖親鸞と自らの寿像（存命中に描かれた姿）が圧倒的に多くなります。実は蓮如こそが最も積極的に名号本尊と影像の配付を利用して、全国の末寺や門徒衆と独自の関係を築き上げた法主であり、最もたくみな教団経営者でもありました。なかでも親鸞と蓮如が上下斜めに向かいあっている連座御影は、本山に伺候できる直参身分の寺院集団にだけ与えられたもので、遠く離れているはずの本末関係を強く結びつける最重要法具だったのです。

小杉の松韻寺には、寛文十一（一六七一）年、第十五代法主常如が下した親鸞聖人御影がそのいきさつを語る裏書とともに伝存しています。

（中世史部会　広沢　康）

景観再発見作品募集中

実りの秋、芸術の秋。あなたが感じた横越町をカメラに収めてみませんか。

作品のテーマは、川、橋、北方文化博物館、横雲通り（国道49号メインストリート）、花と緑。賞には、町長賞として賞金10万円をはじめとした各賞を用意。町に生まれ変わった様子、横越の四季のすばらしさなどを盛り込んだ数多くの作品をお待ちしています。締切りは、12月19日（金）です。

問い合わせは、役場農政商工課まで　☎385－2111

短歌（公募作品　高点句者）

秋日和散歩乍らの犬連れて帰りに野菜畑を見て来し　（木津）加藤喜秋
夜勤より帰りて風呂に汗流し夜食の粥を妻とすすりぬ　（二本木）渡辺尚
我影の池に映れば金魚らわ水面に群れて朝の餌をまつ　（木津）佐藤安衛
降りつづく雨の中にも蒲原の神のおたくの良しとし祈る　（横越）中村チョイ
晴れの間に急ぎ玉葱取り終えて軒に吊せば初蝉の鳴く　（沢海）渋谷ウタ
潮風を浴びて歌よむ足元の岩にくだけて波は引きゆく　（沢海）伊藤吉作
一輪の白き花なりドクダミに心なごます寺の卓上　（小杉）小田トキイ
自転車をサット股いで踏むペダルパートの孫は手を振り残し　（沢海）田辺タケノ
幾日も雨降らざれば雑水も茄子の間に流してやりぬ　（沢海）清水雅美
良寛堂目下に見ゆる岸場の岩唱に荒れる波の花花　（沢海）清田ミイ